

科目名		建築学実習			
担当教員		高地・野口		実務授業の有無	
対象学科		建築士学科	対象学年		1
必修・選択		必修	単位数		
			開講時期		前期
			時間数		16時間
授業概要、目的、授業の進め方		①建築物を見学することにより、デザインセンスやプランニングセンスを磨く。 ②ハウスメーカーを見学し住宅計画の参考にする。またハウスメーカーの仕事を知る。 ③現場見学を行い、現場の様子や施工管理の仕事を知る。 ④機会があれば、講演会などを聴き建築に関する造形を深める。			
学習目標 (到達目標)		実際の業界現場を見学し、体感することで履修している授業の重要性や関係性を学び、就職や資格取得のためのモチベーション向上につなげる、			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		配布資料			
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	建築物見学 ①企業研究 ②レポート		方法：本物の建築物を見学することにより、デザインセンスやプランニングセンスを磨く。 見学前：企業研究で見るべきポイントと目的を明確化 見学後：レポートで、見学の効果を確認 準備学習：企業研究と、服装、マナー等の指導		
2	工事現場の見学		方法：実際の工事現場を見学し、今後の授業理解の一助とする。また、施工管理をはじめとする現場の仕事内容を理解する。 見学前：企業研究で見るべきポイントと目的を明確化 見学後：レポートで、見学の効果を確認 準備学習：企業研究と、服装、マナー等の指導		
3	住宅展示場（ハウスメーカー）見学		方法：最新の住宅メーカーのデザインや住宅性能を学習する。また、ハウスメーカーの仕事内容を理解する。 見学前：企業研究で見るべきポイントと目的を明確化 見学後：レポートで、見学の効果を確認 準備学習：企業研究と、服装、マナー等の指導		
4	講演会の聴講他		方法：建築家の講演を聞き、建築への考え方やデザインの手法学ぶ（但し、適当なものが開催されなければ実施しない場合もある。） 聴講前：テーマ研究で聞くべきポイントと目的を明確化 聴講後：レポートで、見学の効果を確認 準備学習：テーマ研究と、服装、マナー等の指導		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価方法は左記の割合で評価しますが、期限内に提出がないものは評価の対象としない。 レポート課題60%、授業態度40% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			「百聞は一見にしかず」と言います、いろいろなものを見て考え方や知識を習得しましょう。 そのために、目的を持って見学しましょう。 また、見学の際の服装や姿勢、マナー等の指導も行う		
実務経験教員の経歴					